



## ◆ 構造・施工概要

## 1) 片持ち構造

水位や温度によって変位する既設のダム堤体側に橋体の反力を伝えられないため、完成形は支承を持たない特異な片持ち構造となっています。本橋は、橋長53m、そのうち片持部の長さは43mです。P C橋で、このような規模・構造形式は国内で他に例がありません。

## 2) フィンバック構造

ダム湖水位と橋面高の制約から、桁高を小さくせざるを得ませんでした。そこで、プレストレスを効果的に導入する目的で、P C鋼材を主桁上に大きく偏心させるための魚の背びれ状の部材をもつフィンバック形式を採用しました。

## 3) 架設桁を併用した張出し架設

橋梁下がダム湖のため、支保工を組み立てることができません。そのため、箱桁をブロックに分けて順次張出し架設していかなければなりません。一般的には移動作業車を出来上がった橋体に載せてブロック施工しますが、本橋では桁高が小さいので、移動作業車に架かる荷重を併用した架設桁に取らせました。



フィンバック桁断面図



架設桁組立完了



架設桁併用張出し架設

## ◆ 工程表

項目	平成18年	平成19年												平成20年
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
準備工	■													
橋台工			■											
柱頭部工				■										
仮設工					■									
橋体工						■								
橋面工・片付け工													■	